

釧路港地域における低気圧に伴う高潮浸水被害調査概要

沿岸海洋・防災研究部
沿岸防災研究室

1. 低気圧の概要

前線を伴った低気圧は、平成 27 年 10 月 1 日正午頃に朝鮮半島付近を通過し（996 hPa）、急速に発達しながら日本海を北東に進み、その後、10 月 2 日午前 3 時頃には北海道の西側の海上を通過し（958 hPa）、さらに発達しながら北海道の北側の海上に抜けた。この急速に発達した低気圧に伴い、釧路では強い南よりの風が観測され（最大平均風速：28.5 m，最大瞬間風速：36.8 m），釧路港においては背後域で高潮に伴う浸水被害が発生した。

2. 現地調査

10 月 7 日、釧路港における浸水被害等を対象に、北海道開発局釧路港湾事務所および釧路市へのヒアリング調査、ならびに、浸水痕跡の現地調査を釧路港湾事務所の協力を得て実施した。

図-1 に示す釧路港東港区北ふ頭において、越波により岸壁背後の道路が 150 m の範囲で浸水した（写真 1-1）。道路への冠水は、10 月 2 日午前 6:00 頃から 9:30 頃の時間帯であった。浸水の痕跡は、岸壁背後の草地で確認でき、写真 1-2 の赤線までが推定した浸水ラインである。



図-1 釧路港東港区、写真撮影位置、現地調査場所

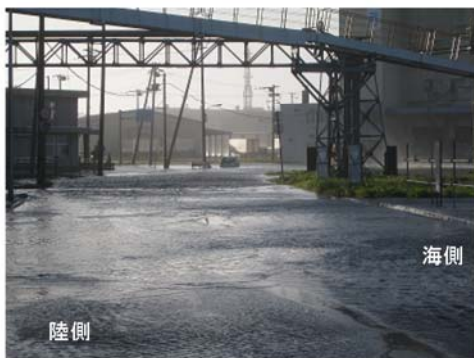


写真1-1 東港区北埠頭岸壁沿い道路(10月2日6:42頃)



写真1-2 東港区北埠頭岸壁沿い道路(10月7日撮影)

釧路港西港区では、越波により背後域が広範囲（推定浸水面積；約 80 ha）で浸水し、主に道路が冠水した。この浸水による荷役作業への障害や、建物・倉庫への浸水は発生しなかった。浸水範囲を図-2 中の赤いラインで示す。写真 2-1 は、臨港道路西港区縦 8 号での冠水状況であり、ヒアリングしたところ、普通車ででの進入ができる状況でなかった(図-2 中①)。写真 2-2 は、釧路市庁舎敷地西側入口付近(図-2 中②)の状況である。浸水範囲北側のラインは、海岸線から約 400 m の臨港道路付近まで到達していた(写真 2-3 および写真 2-4, 図-2 中③および④)。浸水範囲の東側は釧路港湾事務所入口前面まで到達し、西側は第 3 埠頭背後の道路まで到達していた。浸水範囲の西側では、マンホールの蓋が移動していた。

図-2 中の②を含む点線の範囲を対象に、浸水の痕跡の測量を実施した。この範囲における浸水深は、最大で 0.5m であった。



図-2 釧路港西港区浸水範囲, 写真撮影位置, 現地調査場所

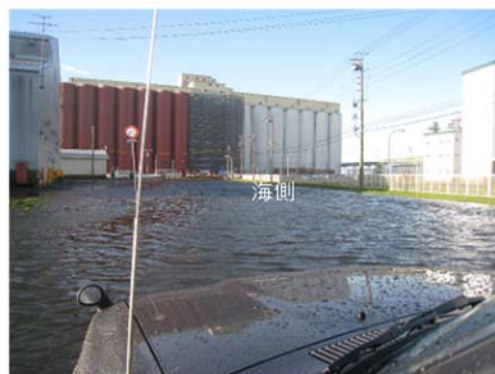


写真2-1 臨港道路西港区縦8号南向き(10月2日6:55頃)



写真2-2
釧路市港湾庁舎から
庁舎敷地西側入口
(10月2日6:56頃)



写真2-3 臨港道路釧路西港道路西向き(10月2日6:50頃)



写真2-4 臨港道路釧路西港道路東向き(10月2日9:19頃)

* 出典：背景地図は国土地理院電子図を元に作成。浸水時の写真は、釧路市提供資料を元に作成。